

「コミュニティ通訳養成のための講師育成研修」を開催しました

2016年に来日した外国人観光客は2400万人を超えており、2020年のオリンピック・パラリンピックに向けてますます増加することが見込まれることから、災害など緊急時に多言語対応できるよう準備することが求められています。また、日本に在住する外国人も238万人と急増しており、自治体や国際交流協会などではコミュニティ通訳の育成が急務となっていますが、通訳として活動したい方は多くいるにも関わらず、コミュニティ通訳を育成できる専門機関や講師が不足している現状です。

そこで、言語文化サポーター登録者※を対象に、「コミュニティ通訳養成のための講師育成研修」を開催して、今後講師として活躍できる人材を育成しました。研修には、選考を通過した言語文化サポーター9名が参加し、講義用資料を作成して模擬講義を行ったり、互いの講義について議論したりと内容の濃い2日間の研修を受け、最後に修了証を受け取って笑顔で終了しました。

※言語文化サポーターは、東外大卒業生、大学院生(正規留学生を含む)、教職員等で構成された組織です。

○日時:平成29年6月3日(土)・7月1日(土)10:00-16:00

○場所:東京外国語大学 多言語・多文化教育研究センター
(東京都府中市朝日町3-11-1 東京外国語大学 研究講義棟319)

○講師:内藤 稔(東京外国語大学 大学院総合国際学研究院講師)

○内容:
【1日目(6/3)】



10:00-12:00

- ・本研修の目的とねらい
- ・コミュニティ通訳養成のための研修内容に関する講義
- ・通訳演習の実践(リテンション、リプロダクション、逐次通訳など)

13:00-16:00

- ・グループによる通訳演習の作成(対象者に応じた演習内容の選定、テーマの設定など)
- ・作成した演習についての相互評価
- ・全体ディスカッション
- ・次回までの課題(講義用資料および逐次通訳ロールプレイ用シナリオの作成)の説明

【2日目(7/1)】

10:00-12:00

- ・講義用資料をもとにした模擬講義
- ・個々人の模擬講義に対するフィードバック

13:00-16:00

- ・逐次通訳ロールプレイ用スクリプトの発表
- ・個々人の発表に対するフィードバック
- ・全体ディスカッション
- ・まとめ



《受講者感想》

- ・人のつながりを広げること、新しい知識を得ることができて有意義な2日間でした。
- ・研修の目的、研修内容に必要な配慮(対象参加者、主催者の目的、各地での研修の様子、依頼者の多様性、主催者の啓発)、研修の在り方、体系的な方法など大変わかりやすく参考になりました。一緒に考えてよいものを作ることを目指す雰囲気がいよいと思いました。それぞれが経験の中から思うことがあり、その思いを共有しながら大切なものを形にすることを考え、まとめられたことがよい結果になったと思います。皆さんからのコメントも有意義でした。
- ・学んだことを生かす力と講義を行う対象に合わせた応用の力が今後講師として問われることであると痛感しました。

《内藤先生感想》

今回の研修を通して、あらためてコミュニティ通訳を養成する上での様々な課題について、講師側の視点から確認、参加者と共有することができました。コミュニティ通訳がさらに発展していくためにも、今回の研修を契機に、今後も何かしらの形で学び合いのネットワークが広がっていくことを願っています。